



金沢市

新産業成長 ビジョン

改訂版

目次

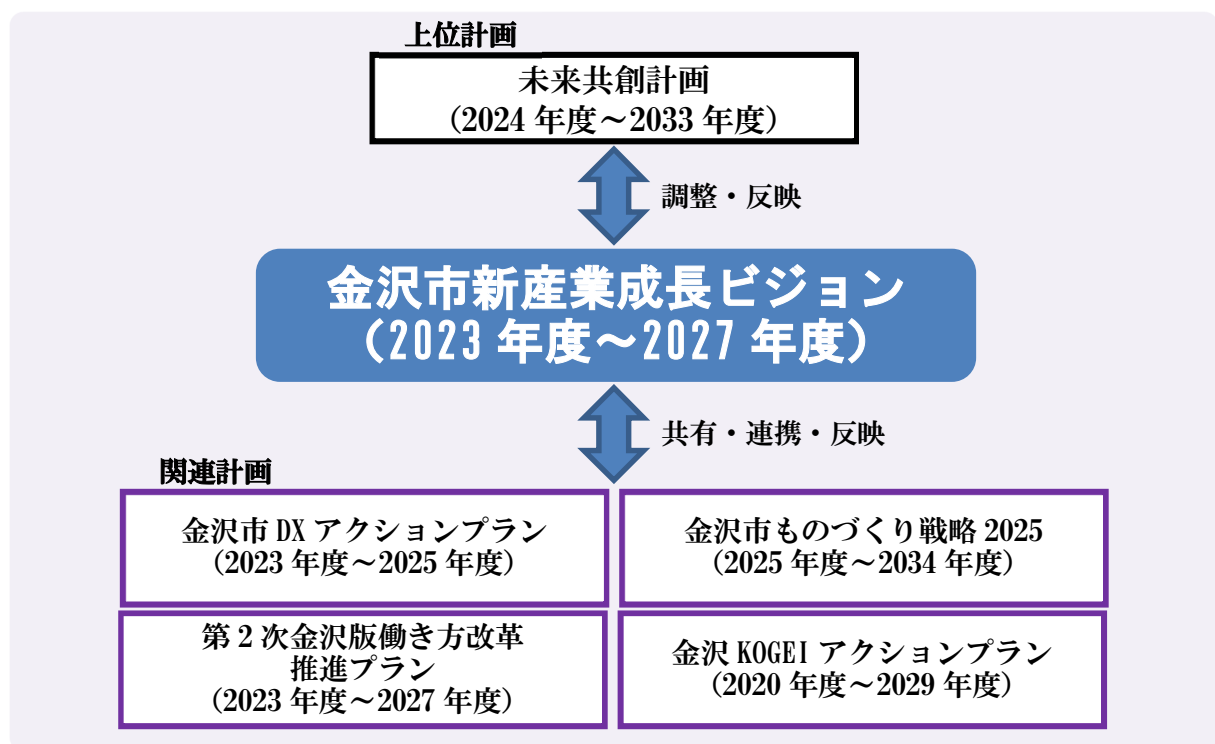
はじめに		1
ビジョンの 基本的な考え方		2
ビジョンの体系		3
戦略 1	最先端技術を活用し、「リアル」の 価値をより高め、成長するまち	4
戦略 2	外に開かれ、人と人が交わり、 つながり続けるまち	5
戦略 3	進取性と多様性を受け入れ、 挑戦を支えるまち	6
戦略 4	産学官金の連携により、 人と企業が育ち、集うまち	7
戦略 5	金沢の「文化」と「産業」が融合して、 高い付加価値を生み出すまち	8
目標値	主なモニタリング指標	9
資料編	金沢市新産業成長ビジョン策定に向けて	
	(1) ビジョンの策定経緯	10
	(2) 市民や企業等へのヒアリング調査	11
	(3) 金沢市新産業成長ビジョン策定委員会	14
	金沢市新産業成長ビジョン中間検証について	15

本市では、AI や IoT 等による技術革新やグローバル化などの情勢の変化に的確に対応するため、2018 年 10 月に「金沢市新産業創出ビジョン」を策定しました。その後、新型コロナウイルス感染症の流行、人口減少・少子高齢化社会の進展、円安の進行や物価高騰など社会経済情勢は大きく変化したほか、「Society5.0」※¹や「Web3.0」※²時代が到来し、国においてもデジタル社会の実現やスタートアップの創出に注力するなど、経済再生と成長に向けた動きが加速化しました。一方で、地域経済においては、デジタル化の導入が進む企業と進まない企業の二極化、労働力人口の減少に伴う産業人材不足、後継者不足等に起因する事業承継問題など新たな社会課題が生じていました。

これら社会経済情勢の変化や地域経済における社会課題を踏まえ、本市では、金沢の個性を生かし、高い付加価値を生み出す新産業の成長・発展に向けた方向性を示すため、2023 年 3 月に「金沢市新産業成長ビジョン」を策定し、産学官金連携による取り組みを進めてきました。

その後、本市では、2024 年 2 月に金沢市都市像の実現に向けた行動計画として「未来共創計画」を策定するとともに、2025 年 7 月に金沢駅東都心軸が国の「都市再生緊急整備地域」に指定されたほか、同年 9 月には、「金沢市中小企業・小規模企業振興基本条例」を制定しました。また、国においては、2025 年 6 月に AI の研究開発や利活用を推進するための「AI 法」※³が施行されるとともに、人や企業の地方分散を強力に推し進めるための「地方創生 2.0 基本構想」が閣議決定されました。このような状況を踏まえ、本ビジョンの中間年度にあたる 2025 年度に取組方針等について検証を行い、同年 12 月に「金沢市新産業成長ビジョン」を改訂しました。

ビジョンの期間と位置づけ



※1 Society5.0…仮想空間と現実空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会。国の「第 5 期科学技術基本計画」において、我が国が目指すべき未来社会の姿として提唱された。

※2 Web3.0……データ・情報の流れが一方方向型の第 1 世代（「Web1.0」）、双方方向型の第 2 世代（「Web2.0」）に続く、分散型台帳・ブロックチェーン技術などを基盤とした次世代のインターネットとされている。

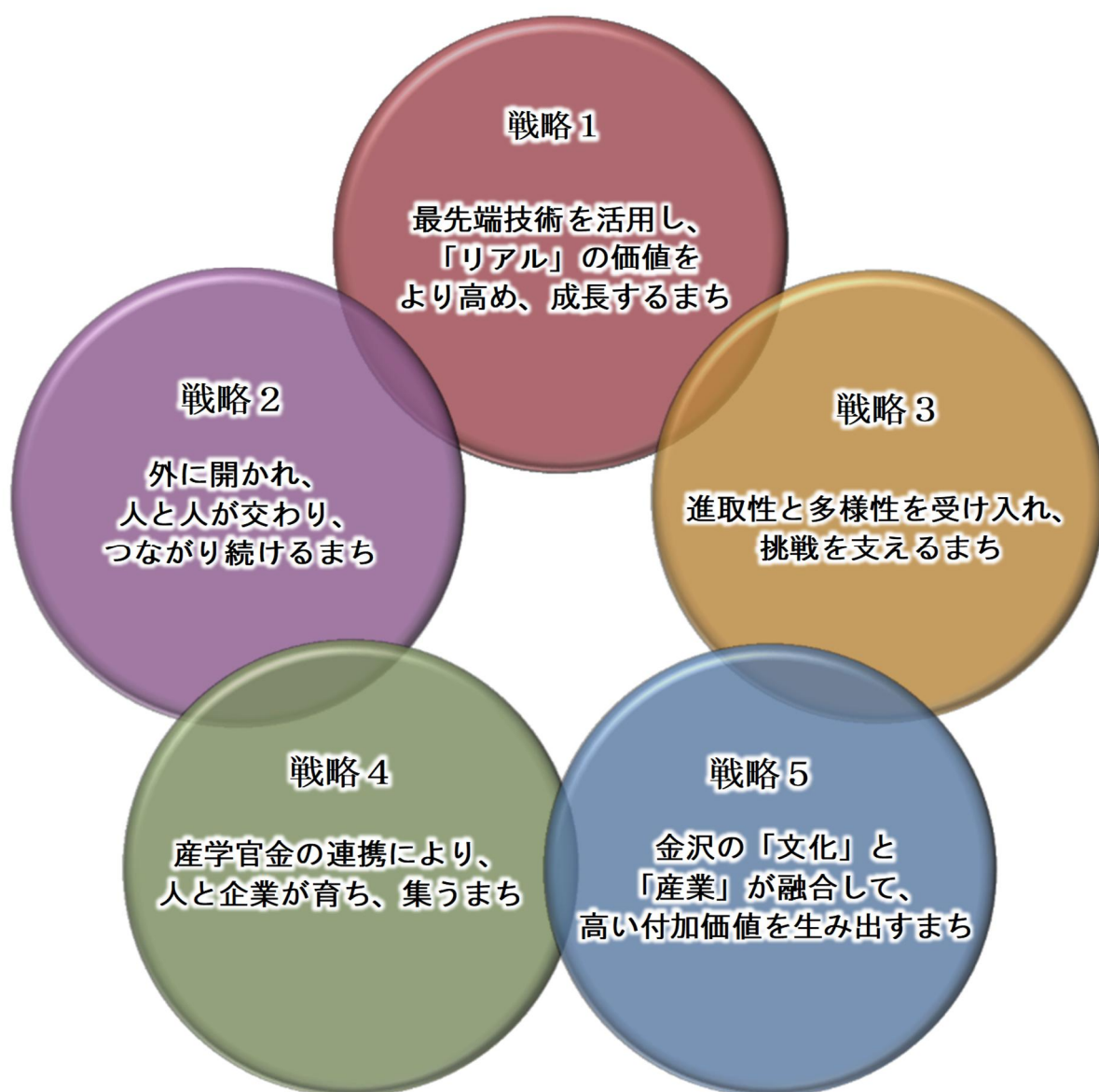
※3 AI 法…… 人工知能関連技術の研究開発及び活用の推進に関する法律。2025 年 6 月一部施行、同年 9 月全面施行。

ビジョンの基本的な考え方

新産業成長ビジョンでは、産学官金の連携のもと、「ヒト」「モノ」「技術」「情報」を集積・活用し、進取性※¹と多様性を受け入れ、新たな挑戦がしやすい環境を構築するとともに、歴史に育まれた本市固有の「文化」と「産業」を融合することで、本物の価値を高め、創造・変革していくまちをめざします。

めざす姿

本物の価値を高め、創造・変革していくまち 金沢



「めざす姿」の実現に向け、5つの戦略に基づき、取り組みを進めます。

※1 進取性…自ら困難な課題に果敢に挑戦すること。

めざす姿

戦略

取組方針

本物の価値を高め、創造・変革していくまち 金沢

【戦略1】
最先端技術を活用し、
「リアル」の価値を
より高め、成長するまち

- (1) 最先端技術を活用し、リアルの価値を向上
- (2) 企業活動の創造性や生産性向上につながる取り組みを支援

【戦略2】
外に開かれ、
人と人が交わり、
つながり続けるまち

- (1) 地域の特性を活かし、市外から人や投資を呼び込む施策を推進
- (2) クリエイター・アーティスト・ICT エンジニア等多様な人材を集積・活用

【戦略3】
進取性と多様性を
受け入れ、
挑戦を支えるまち

- (1) あらゆる世代が挑戦・活躍できる環境を構築
- (2) 起業家教育、リスクリング、事業承継を促進

【戦略4】
産学官金の連携により、
人と企業が育ち、集うまち

- (1) 世界で活躍できるクリエイティブ人材を育成
- (2) 産学官金の連携により新産業の創出を推進

【戦略5】
金沢の「文化」と
「産業」が融合して、
高い付加価値を生み出すまち

- (1) 工芸の新たな価値の創造と需要の拡大
- (2) 「文化」や「産業」を軸としたシティブランディングの強化

戦略 1

最先端技術を活用し、「リアル」の価値をより高め、成長するまち

新型コロナウイルス感染症の流行を転機とし、企業の生産性向上や事業継続力強化の観点からデジタル技術を活用することの重要性が再認識されました。また、世の中の変化を予測しにくい時代だからこそ、企業活動のDX※¹を進めることで、事業環境の変化に柔軟に対応することが求められています。一方、新たな価値を創造するためには、日々進展するAI※²やAR※³などの最先端のデジタル技術等をツール（手段）として活用し、リアルとデジタルのそれぞれの良さを融合させ、高め合うことが必要です。「本物」を大切にしてきたまち、金沢だからこそ、最先端の技術を活用し、「リアル」の価値を高め、地域資源を活用した新たな産業の創出・成長や地域経済の発展、持続可能な社会の構築を図り、ひいては市民生活の向上につなげていきます。

取 組 方 針

- (1) 最先端技術を活用し、リアルの価値を向上
- (2) 企業活動の創造性や生産性向上につながる取り組みを支援

施 策 イ メ ージ

- デジタル技術を活用した工芸の新たな魅力発信
- 3D・AR技術等を活用した「金沢ミュージアム+（プラス）」の拡充
- 観光データを活用した地域におけるデジタルマーケティングの推進
- 中小企業等におけるAI・DXの実装を伴走支援



工芸の新たな魅力を発信する
「KOGEI デジタルアートミュージアム」



中小企業等における
AI・DXの実装を伴走支援

キーワード

「創造性・生産性の向上」「市民の利便性向上」「持続可能な社会の構築」「最先端技術の活用」
「先端技術と地域資源の融合」

※1 DX (Digital Transformation) ……データやデジタル技術を活用し、ビジネスモデルや業務、組織を変革し、競争上の優位を確立すること。

※2 AI (Artificial Intelligence) … 人工知能。推論・判断などの知的な機能を備えたコンピューター・システム。

※3 AR (Augmented Reality) ……拡張現実。人が知覚する環境の情報に、別の情報を付加するなどして現実認識を拡張する技術。また、その拡張された認識。

戦略2

外に開かれ、人と人が交わり、
つながり続けるまち

リモートワークの普及により、時間や場所にとらわれない多様で柔軟な働き方が広がっています。政府が策定した「地方創生2.0」※¹の実現に向けて、「関係人口」※²の創出・拡大が求められる中、金沢らしい新たな価値を生み出すためには、金沢の良さや市場価値を国内外に発信し、市外から人や投資を呼び込み、新たな産業の創出や地域経済の成長につなげていく必要があります。

また、クリエイティブな人材は、まちに刺激を与え、化学反応を起こす端緒になるとともに、創造性の幅を広げ、高い付加価値を生み出す源泉となります。都市再生緊急整備地域の指定を機に、都心軸を活性化し、多様な人が交わり、集まり、つながり続けることができる環境を整えることで、金沢発のイノベーション創出につなげていきます。

取組方針

- (1) 地域の特性を活かし、市外から人や投資を呼び込む施策を推進
- (2) クリエイター・アーティスト・ICTエンジニア等多様な人材を集積・活用

施策イメージ

- イノベーションを誘発するデジタル・コンテンツ関連企業やクリエイター等の集積
- 都心軸の活性化を通じて、関係人口の創出や地域経済の成長を推進
- 若者や女性、高度外国人材など多様な人材の交流と活躍の場を創出
- 産学官金連携によるアントレプレナー※³交流の促進



デジタル関連企業等の誘致



起業家やクリエイター等による交流会の開催

キーワード

「関係人口の拡大」「クリエイター・アーティスト・ICTエンジニアの集積と活用」
「市外からの人材・投資の呼び込み」「都心軸の活性化」「地域に根差した起業を支援」

※1 地方創生2.0……強い経済と豊かな生活環境を基盤に「新しい日本・楽しい日本」を実現するための政策。2025年6月に今後10年間を見据えた方向性を提示する「地方創生2.0基本構想」が閣議決定された。

※2 関係人口……移住した「定住人口」と観光に訪れる「交流人口」の間に位置付けられる概念で、地域と多様に関わる人々を指す。

※3 アントレプレナー……独創的なビジネスアイデアと技術で新しい市場を開く起業家。

戦略3

進取性と多様性を受け入れ、 挑戦を支えるまち

変化が激しい今の時代、成長・発展していくためには、新たな市場や日々変容するニーズを的確に捉え、迅速に決断・対応していく必要があります。これまで培ってきた高度な知識や技術を次世代に引き継ぎつつ、チャレンジ精神をもって、新たな取り組みに挑戦していくことから、新たな価値を生み出す可能性が芽生えるとも言えます。

学生、若者、女性をはじめとした多様な人材を受け入れる柔軟で働きやすい環境を構築し、活躍を促進することで、地域のサステナビリティ※¹を高めていきます。さらに、起業や新たな学びの習得など、多様な人材の意欲あるチャレンジを支えることにより、金沢らしい多様な産業が生まれ、結びつき、発展していく社会の実現につなげていきます。

取 組 方 針

- (1) あらゆる世代が挑戦・活躍できる環境を構築
- (2) 起業家教育、リスキリング※²、事業承継を促進

施 策 イ メ ージ

- 若年期からの起業家教育の推進
- 若者や女性のスタートアップを支援するための施策の充実
- 中小企業及び小規模企業の事業承継の円滑化
- 中小企業におけるリスキリングの促進
- 人材確保と地元定着に向けた女性活躍の更なる推進



女性起業家の支援プログラム



事業承継の促進

キーワード

「学生・若者・女性活躍」「起業・事業承継促進」「若者や女性に選ばれるまち」「リスキリング支援」「サステナビリティの推進」

※1 サステナビリティ……持続可能性。環境・社会・経済などが将来にわたって適切に維持・保全され、発展できること。

※2 リスキリング……新しい職業に就くために、あるいは、今の職業で必要とされるスキルの大幅な変化に適応するために、必要なスキルを獲得する（させる）こと。

戦略 4

産学官金の連携により、 人と企業が育ち、集うまち

本市では、地域経済をけん引する新たな産業の創出と金沢の未来を創り上げるクリエイティブ人材を輩出するため、「金沢未来のまち創造館」や「IT ビジネスプラザ武蔵」を拠点に、スタートアップの創出支援と次世代のデジタル人材の育成等に取り組んでいます。

また、民間企業が持つノウハウや高い技術力、学都金沢に集積する大学等高等教育機関の研究シーズ及び金融機関が持つ資金面からの支援と幅広いネットワークなどを相互に活用し、産学官金の連携をより強化することで、新たなビジネスを生み出す環境を構築するとともに、金沢で生まれた価値を関係する機関・団体が一体となって応援する体制を整えることにより、企業の成長・発展につなげていきます。

取組方針

- (1) 世界で活躍できるクリエイティブ人材を育成
- (2) 産学官金の連携により新産業の創出を推進

施策イメージ

- 次世代の ICT エンジニアやデジタルクリエイターの育成
- 大学や企業の持つ最先端技術の知見を活用し、新産業の創出につながる社会実装を支援
- 経済の持続的な成長を生み出すスタートアップ・エコシステム^{※1}の形成を促進
- 金沢未来のまち創造館の活動推進
(スタートアップ・新ビジネス創出、子供の独創力育成、食の価値創造事業の推進)



次世代のクリエイティブ人材の育成



大学等との連携による
デジタル技術を活用した社会実装の支援

キーワード

「金沢未来のまち創造館の活用」「スタートアップ・エコシステムの形成」「クリエイティブ人材の育成」
「産学官金の連携強化」

※1 スタートアップ・エコシステム…スタートアップをサポートする多様な人材や組織が相互に関連しながら活動することで、スタートアップが次々と立ち上がり大きく成長する状況が継続的に生じる仕組み。

戦略5

金沢の「文化」と「産業」が融合して、高い付加価値を生み出すまち

都市間競争が激化している中、他都市との差別化を図る一つのキーワードが、世界に誇るべき金沢の「文化」です。「文化」を経済市場の活性化につなげる、「文化」を人材育成に活用するといった戦略は、「文化」を基盤として成長してきた本市産業が、金沢らしい本物の価値を高め、生み出し、成長する一つの方策と言えます。歴史に育まれた本市固有の「文化」を軸として、金沢美術工芸大学や金沢卯辰山工芸工房が持つ豊富な資源やポテンシャルを活用するとともに、デジタル技術の活用やクリエイティブな人材の集積を図ることで、高い付加価値を生み出し、稼ぐ力を備えた新たな産業やイノベーションを創出するまちとしての、シティブランディングを強化していきます。

取組方針

- (1) 工芸の新たな価値の創造と需要の拡大
- (2) 「文化」や「産業」を軸としたシティブランディングの強化

施策イメージ

- 海外や首都圏における工芸・アート作品や食文化の魅力発信と販路拡大を強化
- 専門家の派遣により若手工芸作家の経営力向上を支援
- 作家やアーティストの成功事例の情報発信
- 食、自然、文化芸術など本市の強みを最大限に生かし、人材や技術の「新結合」を推進



首都圏における工芸の販路拡大
(KOGEI Art Gallery 銀座の金沢)













文化を軸とした新たな産業の創出
(本市に拠点を置くアニメーションスタジオ
トンコハウス)

キーワード

「シティブランディングの強化」「イノベーション拠点の形成」「成功事例の蓄積・発信」
「クリエイティブ人材の集積」

主なモニタリング指標（目標値）

本ビジョンの進捗状況を適切に把握するため、以下の指標などをモニタリングし、その結果を踏まえ、新たな施策の必要性や施策の修正などを検討してまいります。

指 標	2023 年 (実績)		2027 年 (目標)
■ 中小企業 A I / D X 相談・導入支援件数（累計）	76 件		250 件
■ クリエイター・アーティスト・ICTエンジニア等 誘致件数（累計）	7 件		11 件
■ 起業にチャレンジする若者の支援件数（累計）	83 件		125 件
■ 創業支援事業計画に基づき支援した創業者数（累計）	1,116 人		1,500 人
■ 中小企業におけるリスクリングへの支援件数（累計）	-		20 件
■ 事業承継に寄与する取組の支援件数（累計）	-		8 件
■ 金沢 I T 部活アカデミーの部員数（累計）	55 人		160 人
■ 先端デジタル技術を活用し、新たに取り組む社会実装の 事業数（累計）	2 件		10 件
■ 金沢クラフトインデックス登録件数	268 件		295 件
■ 工芸アートフェア等出展・開催者数（累計）	6 件		26 件

(1) ビジョンの策定経緯

第1回 委員会

2022年11月10日

【報告】

- ・委員会の設置目的
- ・新しいビジョン策定に向けた進め方
- ・現行ビジョンに掲げたプロジェクトの検証と総括

【議題】

- ・新しいビジョンの策定に向けた方針、方向性について

2022年11月中旬～12月中旬

企業等へのヒアリング

第2回 委員会

2022年12月26日

【報告】

- ・第1回委員会等における委員意見の要旨
- ・業界団体、企業ヒアリング調査の結果報告

【議題】

- ・新しいビジョンの骨子（案）について

2023年1月18日～2月16日

パブリックコメント

第3回 委員会

2023年2月20日

【報告】

- ・パブリックコメントの結果報告

【議題】

- ・新しいビジョン（案）について

(2) 市民や企業等へのヒアリング調査

委員及び業界団体、企業からの意見について5つのカテゴリに分け、整理しました。

①企業等へのヒアリング

実施期間 2022年11月下旬～12月下旬

業界団体 8団体、企業 24社

対象業種 農業・林業・漁業、建設業、製造業、電気・ガス・熱供給・水道業、情報通信業、運輸業・郵便業、卸売業・小売業、金融業・保険業、宿泊業・飲食サービス業、学術研究・専門・技術サービス業、生活関連サービス業・娯楽業、その他

1

「リアルな場」と「デジタル技術」

- ・リアルな場所があるからこそ全く新しい価値が生まれる。「フィジカル」と「デジタル」をかけあわせた「フィジカル」により創造性を高めることが必要だ。
- ・インプット、アウトプットのプロセスはデジタル化されていくが、金沢はリアルのまちをめざすべき。アナログの技術を最高峰にしなければいけない。
- ・金沢の高級感は来てもらわなければわからない。来街者のみを感じるができる、という付加価値は残すべきである。
- ・デジタルはあくまでツールである。メタバースやNFTなども発信ツールの一つとして活用していくべき。VR空間はリアルな金沢と繋がった人、繋がろうとしている人に対して、バーチャル空間でも継続的につながることができるツールである。
- ・デジタルでなければ表現できないこと、リアルでなければ表現できないことのバランスを取りながら、新たな技術を開発していく。両方それぞれの価値が横に並ぶのが理想だ。
- ・デジタル化に関心をもたない中小企業に、危機感や関心をもってもらうための仕掛けが必要だ。

2

人のつながり、集積

- ・これからは関係人口を増やしていく時代だ。人の移動、交流が関係人口を介して大きくなることで、まちの成長につながる。北陸新幹線敦賀延伸などは非常に好機である。また、関係人口拡大はリアルの世界とバーチャルの世界のハイブリッド型で進めていくべきだ。
- ・スタートアップを地方都市で成功させるためには、ワーケーションやリモートオフィスの環境を整え、セカンドオフィスとして活用できることをPRすべきだ。
- ・外の人に「金沢ファン」になってもらい、「金沢の良さ」を発信してもらうことで、市内の人も、これまで気づかなかった「金沢の良さ」に気づかされる。
- ・クリエイターの集積は重要だが、仕事がないと意味がない。金沢は「クリエイターが食べていけるまち」、が一つのシティブランドである。
- ・工芸だけでなく、ファインアート（建築、彫刻、絵画、音楽など）や、デザインにも光を当てるべきである。

3

新たな チャレンジ、 チャレンジする マインド

- ・今の時代、人の後についていく受け身体質では生き残れない。自ら動くチャレンジ精神が重要だ。歴史や伝統は大切だが、安住してしまうと、ゆでガエルのように衰えてしまう。
- ・起業家教育、事業承継教育を金沢のシティブランドと結びつけることが重要だ。
- ・地域で生まれたものは地域のみんなで発注・消費し、応援していくことが起業家たちを育てることにつながる。
- ・高度女性人材の育成、集積により、女性の労働資本性を高め、まち全体の生産性向上につなげるべきだ。高所得の女性を生み、引きつける、女性活躍は経済の問題である。
- ・卯辰山工芸工房や職人大学校の存在を考えると、金沢はリスキリングが得意なまちと言えるのではないかな。

4

産学官金の 連携、 人材育成

- ・金沢の良さである産学官金の連携を推し進め、色々なところで新しいコラボレーションが起こればいい。
- ・今後、産学官金連携して、「アイデアを生む人材の育成」、「アイデアの発掘」、「アイデアを生む仮想空間の活用」といった施策が必要となるのではないかな。
- ・デジタルの蓄積とものづくりをつなぐようなアプローチがあれば良い。金沢市には多様な業種があるため、横の連携を促進するような取り組みがあれば良い。
- ・金沢未来のまち創造館で新たな価値を生み出す人とそれをフォローしてサポートする体制をブーストさせる必要がある。
- ・金沢未来のまち創造館の活動を一次産業や二次産業に広げていくべきだ。また、小中学生に活動に触れてもらう機会をさらに提供していくべきだ。

5

文化的市場の 活性化と産業化

- ・新しいテクノロジーが、文化価値を先鋭化する。
- ・多感な時期を金沢で過ごした美大の学生は金沢の良さも悪さもどちらも把握している。美大OBを活用し、新たな文化に目を向けても良いのではないかな。
- ・都市間競争が激化しているため、「文化を市場の活性化につなげる」、「文化を人材育成につなげる」、という点に特化するという考えはある。
- ・金沢市では、子どもの頃から文化やアートに触れる機会を提供しているが、大人が文化にアクセスできるようにすべきだ。オフィスにアーティストやデザイナーなどクリエイティブな人が交わる仕組みがあれば良い。
- ・未知の技術や才能を可視化し、文化の活用をプロデュースできる人材が必要だ。

② ビジョン骨子案に関するパブリックコメント

実施期間 2023 年 1 月 18 日～2 月 16 日

募集方法 金沢市ホームページ「いいね金沢」への掲載や、金沢市情報コーナーと
金沢市経済局産業政策課内に資料配置を行い、郵送、FAX、電子メール等による
市民の意見を募集しました。

意見提出状況（意見提出者数：5 名）

意見総数		6 件
項目別の 市民意見	ビジョン（めざす姿）	1 件
	戦略 1	1 件
	戦略 2	2 件
	戦略 3	1 件
	戦略 4	0 件
	戦略 5	1 件

(3) 金沢市新産業成長ビジョン策定委員会

氏 名	所 属 等
出原 立子	金沢工業大学情報フロンティア学部 教授 総務省「Web 3時代に向けたメタバース等の利活用に関する研究会」構成員
金間 大介	金沢大学融合研究域融合科学系 教授
姜 理恵	法政大学デザイン工学部システムデザイン学科 教授
菊澤 智彦	株式会社北國銀行 執行役員 総合企画部長
杉本 亜美奈	フェルマータ株式会社 代表取締役
鶴山 庄市	一般社団法人金沢経済同友会 副代表幹事
豊田 欣吾	金沢学院大学経済学部 教授
富久尾 佳枝	金沢商工会議所女性会 会長
福光 松太郎 (座長)	一般社団法人金沢クラフトビジネス創造機構 理事長 金沢未来のまち創造館活動運営評議会 会長
宮内 康範	一般社団法人石川県情報システム工業会 新ビジネス創生部会 部会長
宮田 人司	金沢市デジタルミュージアム構築検討会 座長
本山 陽子	ガレリアポンテ 代表

(五十音順、敬称略)

金沢市新産業成長ビジョン中間検証委員会

本ビジョンの中間年度である 2025 年 7 月に、「金沢市新産業成長ビジョン中間検証委員会」を設置し、2 回に渡り委員会で検証を行い、同年 12 月に「金沢市新産業成長ビジョン」を改訂しました。

氏 名	所 属 等
出原 立子	金沢工業大学メディア情報学部 教授
橋本 昌子	金沢商工会議所女性会 会長
福光 松太郎 (座長)	一般社団法人金沢クラフトビジネス創造機構 理事長 金沢未来のまち創造館活動運営評議会 会長
宮内 康範	一般社団法人石川県情報システム工業会 新ビジネス創生部会 部会長
宮田 人司	一般社団法人 CLL 代表理事 トンコハウスジャパン共同代表
本山 陽子	ガレリアポンテ 代表 アトリエ&ギャラリー クリーヴァ統括ディレクター
山田 泰輔	株式会社北國銀行 公務部長

(五十音順、敬称略)

検証の経緯

【第 1 回中間検証委員会】 2025 年 8 月 4 日

- ・「金沢市新産業成長ビジョン」の進捗状況の確認
- ・ビジョン達成に向けての方向性について

【第 2 回中間検証委員会】 2025 年 11 月 25 日

- ・第 1 回中間検証委員会における委員意見の要旨の確認
- ・「金沢市新産業成長ビジョン」改訂案について

金沢市新産業成長ビジョン

2023年3月発行 2025年12月改訂

金沢市経済局産業政策課

金沢市広坂1丁目1番1号

TEL (076) 220-2204

FAX (076) 260-7191

E-mail: sansei@city.kanazawa.lg.jp



金沢 KANAZAWA
MIRAI NO MACHI CREATION CENTER
未来のまち創造館